

体内環境の検査としてミネラル分析

ある医師は、健康管理の評価方法、検査、及び、治療の伝統的な基準に執着し続けています。また、他の医師の中には、病気細分化に注目し、ますます専門化させることにエネルギーを費やしています。しかし、北米および一部海外の代替療法、対処療法、および、健康管理サービス提供者は、すでに懐古的な治療方法を脱却しはじめ、生体内環境評価と呼ばれる、治療、および、健康管理の革命的なアプローチをはじめ、その動きはますます拡大しています。

爪・毛髪分析は、ミネラル、及び、微量ミネラルの体内濃度を把握するために優れた分析方法です。爪の構造は不変であるために、体内におけるミネラル、及び、微量ミネラルの濃度もまた時間の経過に関係なく不変です。また、血液を材料として血液中を流れているミネラル、及び、微量ミネラルの濃度を分析するのに比べ、過去の時間的経過による蓄積を把握できるために、ミネラルの吸収および代謝のバランスを推測することによって、ミネラルが大きく関わる酵素の産生、代謝、細胞の活性などを的確に知ることができます。

以下に1例を挙げます。

元素	濃度低下による疾患兆候	濃度増加による疾患兆候
アルミ	特になし	アルツハイマー病の可能性
ヒ素	特になし	腹痛・脱毛
バリウム	特になし	高血圧、腸の吸収障害
ベリリウム	特になし	肺疾患
ム		
ボロン	カルシウムの吸収障害	発育遅滞、下痢
カドミウム	特になし	高血圧、発ガンの危険性大、特に前立腺ガン
カルシウム	不眠症、筋肉のけいれん、発育遅滞、高血圧、骨粗しょう症	
塩素	胃酸産生低下による消化障害	高血圧、貧血
クロム	動脈硬化症、低血糖症、糖尿病	皮膚障害の可能性
コバルト	ビタミン B12 の欠乏	血中鉄分低下を引き起こす
亜鉛	免疫機能低下、感染症誘発、前立腺機能障害、発育遅滞、脱毛、酵素産生障害、消化系障害、味覚・臭覚障害、糖尿病、	鉄・銅の吸収障害